

あの豊かな大熊の暮らしは
取り戻さなければならぬ

ねもと ともこ 根本 友子

大熊町ひまわりプロジェクト 会長

昭和22年（1947）、大熊町生まれ。

1974年から震災までの間、夫とともに大熊町で運送業を営み、
自身は事業の傍ら、農業委員として町の農業振興にも力を注いでいた。

震災後は大熊町農業委員会会長として大熊町の里山の景色を取り戻すため
農業の復興を目指し、「ひまわりプロジェクト」を続けている。

大熊町は震災から8年以上かけ、ようやく故郷の一部を
取り戻したばかりです。私は大熊町で生まれ育ち、
大熊しか知りませんでした。人生がこんなふうになるなんて考えたことも
ありません。振り返ると震災までの暮らしは本当に豊かなものでした。
「なんでそんなに一生懸命になれるの」と言われることもあります、
あの暮らしは取り戻さなければならぬと強く感じていて、この10年、
その思いに支えられています。その信念があるから民生委員として町民の思いにも
寄り添えて、自分の生きがいにも^{つな}繋がっている。生きがいは人それぞれ。
私の場合は「故郷が生きがい」だと思います。「大熊町ひまわりプロジェクト」は
農地保全の目的もありますが、故郷を彩って町民を癒やし、希望を持ち続けるための
チャレンジでもあります。震災の年、避難先の会津若松市の方から提案を、
喜多方市の農家から種を分けてもらってみんなでひまわりを植えたことが始まり。
種を採って沖縄県北中城村^{きたなかぐすくさん}に送り、温暖な冬の沖縄で咲かせた花の種を夏の福島で
咲かせるという交流を10年間絶やさず続けてきました。こうやって小さな希望を
繋ぎながら、里山の暮らしをあきらめることなく進んでいきたいのです。



「ひまわりプロジェクト」は沖縄との交流も支えになり、
2017年に発足